

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年  
6月号  
通巻670号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年6月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)45-1192  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 300円  
年間購読料3,500円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



与那国島の立神岩

(齋藤正宏さん撮影 文7頁)

座談会・法主を囲んで(再編集版)

みそぎ

## 禊を通して生き方を考え直す(第3回)

法主 矢追日聖(満64歳) 他

この座談会の掲載も3回目になりました。各参加者が法主に遠慮せず自由に語っている雰囲気想像しながら読んでいただければ幸いです。  
今回はこの座談会に参加して、すでに帰幽された方の顔写真も載せました。  
(編集部)

### 型から入って型から抜ける

森下新蔵 はじめ頃は夜通しするさかいに眠たくてつらかった。明くる日は眠とうて一日ボヤーツと逝ったわ。帰るときはもうヘタヘタや。帰ったら飯食うのもうつとうしいくらいにヘタツて寝てしまいますわ。その頃は、今夜また10時から禊会やと思うと、またかいなと思うくらい大層やった。これが本心だ(笑)。  
法主 そらそうやのう。

森下 やっぱり自分が(※すきのお会)会長という名前持つてるだけで、行かなかつたら具合悪いなと思ってな(笑)、行くというような心境だった。それがこの頃は、そういう気持ちは薄らいできて、逆に自分が行かな始まらんという感じになつてきた。

法主 それはええことや。

森下 それに、はじめの頃はつらかったのが、この頃は身を感じるようになってきたのは確か。そういうように心境が変わっただけ、それだけははっきり言えますけどな。禊会に出てどういいうええ事あんたは体験したか、どう思いますかと質問されたら、分からんからな。難しい

けど。自分が向上したとも思えへんしな。というて、霊界の事なんかでもだんな(※ですわ)、分かるという段階にでも入ったら、霊界とか明瞭になってきたなっていうのが分かれればいいけども、初めからチンプンカンプンで分からんよ。

法主 人間の本当の自由性というのは、どんな環境におかれても、それで屈託もないし悩みのないというような事とちがうか。そんな心境になっただけ、これは一番自由人やと思うねん。

例えば私は剣道やってたから言うんやけども、初期に稽古つけるのに、本人が嫌がったかて、姿勢がいかにとか、足の向きがどうか、そらピシピシやるわな。本人にしてみたら癖あるもの。これを基本型にはめるわけや。碁でも習字でも基本型はあるのやと思う。誰でも今までのその人なりに持って来た癖を直そうとすると、ものすごく窮屈やと思うねん。こっちの言う通りにせんかったらバシシといくんやから、そら苦痛やわ。

けれども将来自由に伸ばしていきけるように基本型というのがあるんやから、苦痛を感じても、ある程度、自らそれに飛び込んでね、一つの型に自分自身をはめるわけや。そら初めはしんどいで。しかし、自分がその型にバシシと、はまってしまつたら、窮屈な気持ちみたいなものは抜けてしまふねん。それが普通になつて来るねん。

最初はいろんなうるさい型に無理やり自分のゆがんだ癖をはめ込んで、そしてその型からスーッと抜けたらな、これが一番自由人やな。訓練の段階では、自分の意思以外の何かで自分を縛るような段階は通つて来た方がええと思うんや。そら名人級になつて来た方そんなことは口にせんから、初めから名人級やと思つてかかつたら大間違いや。

ものには順序があると私は思うんや。だから、

私は若い時からそう思つて剣道を通して自分をつの枠にはめて自分を自分で鍛えてきたわな。

今ここでは生活の中に規則を作つたり、人間を一つの大倭流の型にはめようはめようとするようなことは、私は全然してへんけれども、もの原則というものは、型から入つて型から抜ける事やと思うんや。

ところが型を作つても、その型から抜ける事を知らん者が型を作る場合がある。ずーっとどこまでも作つた型でいつてしまふねん。抜ける事を知らんやな。

そやから、ここでは初めから型は作つてないわけや。だから大倭の場合、型から抜けた人間やつたらこはええとこや。逆に、一つの型が必要であるというような人間であれば墮落しよるし、こはええ世界と違うわ。

私の場合は、剣の道やつたけれども、剣道は観念だけの問題とは違うんや。相手がおつてポンポコやつて、肌痛みを感じてやつてんのやからな。頭だけで作つた型やとか観念の中の苦業と違つてね、相手がおるんやもの。

最初型から入っているのやけれども、訓練を重ねて来ると、いつか知らん間に、逆に今度は型から自分自身が抜けることに気がつくわけや。

例えば剣の道では、初めは負けたら困るとか、相手がこんなやからこうしたら勝つとか、そんな事ばかり考えてんねん。ところがある程度やつて来たたらな、そんなどうでもええと思つてやつてんの、勝手に手が動きよるねん。何や知らんけど、型から抜ける。だから構え一つでも、法外の構え方になつてしまふねん。初めからそんな構え方したらあかんのやけどな。

それで学生時代のことやけど、一番難剣やと言われてん。難儀な剣をつかうという事や。だから

ら団体試合になると、私はいつでも先鋒か中堅のどつちかやねん。ちゃんと型にはまって稽古した奴ばかりやから、私みたいな難剣してたら、相手も最初は度肝ぬくがな。(※具体的に構えを示しながら、試合の時の話しをされる)



森下新蔵さん  
上手に書きましようと思つたら書けまへんわ。あの柔の歌、「勝つと思うな、思えば負けよ」という節がありまんな、あの通りやわ。

実際に上手に書こうと思つてやつたぐらいなら負けやわ。手が緊張するの、震えて思うように筆が動きませんわ。

## 聴くことの大切さ

法主 それは勝負の世界やわな。それが禊の場でも、その内容は変わらへんねん。能力があつたとしても、鍛えんかったら出て来ないんやから。だから、性格的にお人好しで誰とでも調和をとつて行くような人であつたとしても、お互いに話し合ひもして自分でとらわれない訓練をして、それを日常生活の中で活かしていいたらええと思うんや。

私は人と、いろんな肩のこるような、神経使うような話しもよくするんやけども、これを3時間でも4時間でも、こっちが心境変わらんと同じ気持ちで聴くんやな。世の中の人みんなが人の話しを素直に聴けるようになったら、社会というものは良くなるんやがなあと、私はいつも思う。

ところが普通の者やつたら、途中で大抵嘴(くちまはし)を入れるやろ。口を挟んで相手の言う事を、ある程度

だけ聞くくらいが多いやろ。私はズーッと聴いてあげてんねん。それで一番長かったんのは、8時間ぶっ続けで聴いた事あるねん。

何にも惜しまんと。まあ相手も喋る人やったけど、それを何の屈託もなく聴ける忍耐力というか、それは一つの訓練やと思うんや。これは誰でもお互いに訓練したら出来る事やと思う。そのくらい気長にのんびりと、人の話しを聴くだけの気持ちの幅が出来たら世の中はそんなに角の立つたような争いは起こらんやろなと思う。

岸野春子 何で途中で口を挟みなくなるんやろ。青山日元 終わりまで聞かんと。じーっと聞いとられへん。



水野勝美さん

自分なりの考えの型にパツと決めつけてしまうのかな。辛抱出来へんな。気持ち分かるけど。禊会のあり方になるけど、何人も寄ってあちこちで喋られたら、誰に中心合わせてええのか分からへん。話の聞き方という事やね。

法主 話すよりも、聞く方が大事だね。

例えば、人があなたに向かって話をするとしたら、その話に自分がとらわれて括られたらあかんねん。すると相手の話を聞いて、その話を段々と自分なりに作っていくんやもの。それである程度したらもう辛抱が出来んようになって、ポイントと今度はこっちから口出して行くんや。

相手は相手としてものを言うてるんやなど、こちら側は聴きさえしたらええんや。自分で勝手にその話に対して何も考えを重ねんと、話として平気で聴くんや。相手は言う事みんな言うてしまつたら、もう後は言う事なくなつてしまふねん。時

間の問題や。そうしてスコーンと相手が空っぽになつたら、今度は、こっちからあれやこれや話してやつたら、すーっと入るねん。途中から入れようとする、まだ相手は吐き出すものが残ってるから、逆にポイントと跳ね返つて来る。こういう忍耐力とか心の幅というものは、話し合いを通して誰でも訓練で出来るようになるやろと思う。

森下 それが世間一般では出来へんわな。もの言うてる最中に、「それはお前、こうやないか」と決めつけて、相手の話を止めてしまうと、相手はまだ言う事残ってるから、「そんな事言うたかて、こうだ」と、必ず言い合いになつてくる。

法主 結論出えへんわな。

森下 相手の話を受ける気持ちになるという心を養うことが、一番肝腎ですな。今日の会は、禊会以上の効果おまつせ、ほんまに(笑)。

杉本順一 私は今の話で思う事はね。対々の人間同士やったら、割合に言い合いになつて喧嘩しますやろ。ところが仮に法主さんやったら大倭教の法主として法話なんかで一方的に喋りはるんやけど……。これを聞く方がね、同じ心境で聞けるかどうか、そこに僕は問題があると思うんです。

同じ話を聞いても、法主さんやから私は信じましょとか、あるいは正しいのではないかとなる場合でも、全然気にくわん奴がいてね、何かもの言いつつたら噛みついたるかというような心境にこっちがなつてる相手がね、全く同じ話を自分にしたとしても、それを素直に聞けるやろか、と思うんですよ。

法主 受け取られへんわな。

杉本 法主さんの言う事と、別の人の言う事とが同じ事なんやったら、正しい、間違つてるといふ事を、自分の方から判断出来へんはずですよ。例えば同じ事を、言うよりも、書いたものを読ま

したらいいんですわね。それでも受け取り方が違うと思うんですよ。それは一体何かという事になりますな。それは相手よりも、自分の方に問題があるんじゃないかなという気がするんですよ。

法主 そやそや、それは聞く方の側にあるんや。杉本 宗教で、中途半端に信じたら怖いというのはね、教祖というのが絶対的にえらいという事で、話す事はなんでも正しいという錯覚があるかね、その話した人の気持ちよりも、聞いた自分の解釈が正しいというふうになつてしまふ。話した事よりも自分の聞いた事が正しくなるわけで、それを法主さんの名前なりを借りて正当化するわけですよ。そういう事が往々にして、特に宗教の場合は、

観念の問題ではつきりと出ると思うんですわ。そういう意味で、人の話を本当に素直に聴くという事は、相手がどの馬の骨が分からん人であっても、また立派やと言われる人であっても、その時の態度として、相手の言葉に対して本当にこちら側に、全然何もないうようにして聴くというのは、ものすごい難しい。しかしそれが本当に大切な事やと思うんですわ。

立派やとか自分が尊敬する人の言う事は、割合素直に聞いてますわ、格好は。けれども結局それは、自分の価値観で吸いとつてるだけという場合があると思う。そんな人は逆に気にくわん奴が来たら、バアツと自分の我を出してしまふんじゃないかなという気がするわけですよ。

法主 その通りやで。杉本 そやから型だけみて、あの人は素直に聞いているからちゃんと聞いてんのかと思つてると、そうじゃなく、気にくわん奴には喧嘩して噛みつきにいきよるといふ事やね。その意味で相手が誰であろうと、どういう状況でも、自分に素直に、相手と接していけるようになればね、それが願わ



# 八重山巡礼記

福井県福井市 齋藤正宏

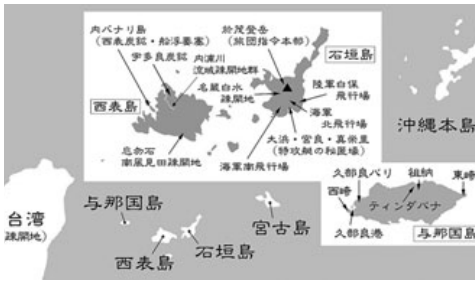
## 最果ての島へ

2024年9月29日。石垣空港を飛び立った私は、台湾との国境まで100キロ程の距離にある与那国空港に降り立った。台風18号の影響で40分ほど遅れ、午前11時過ぎの到着だった。

与那国島の人口は1600人余り。サトウキビ栽培や畜産業、漁業が主な産業で、4時間あれば自転車でも一周できてしまう程の小さな島だ。

石垣島からの距離は124キロだが、那覇から台湾との縁の距離が深かったため、戦前・戦後を通してこの島で最初に訪れたのは、日本最西端の地、西崎。夕日が没するから「入り崎」と呼ばれる。

晴れた日には台湾の島影を望めるらしいが、台風が迫るなか見えたのは分厚い雲の壁と鈍色の海ばかりだった。



八重山諸島図

次に訪れたのは、人头税の悲劇を伝える久部良バリ。人头税というのは、1609年の薩摩侵攻で琉球王朝が、その負担を八重山諸島の人々から取り立てた制度だ。15歳から50歳までの島民全てに人数分の布やコメを課税するもので、明治36

年の撤廃まで約300年近く続けられた。ここには、負担に耐えかねた島民が、妊婦達に海に面した岩の裂け目を飛び越えさせ、口減らしを図ったという逸話が残されている。

祖納集落に近づくとも標高85メートルの異様な断崖が見えてくる。伝説の女酋長サンアイ・イソバ所縁の地ティンダバナだ。遊歩道伝いに上に登ると東シナ海が遠くまで見渡せた。

15世紀末、八重山の島々は、琉球王朝への帰属と貢納を迫られていた。しかし石垣島のオヤケ・アカハチが貢納を拒んだため、王朝側についた宮古軍が追討に送られている(八重山征伐)。アカハチを滅ぼした宮古軍は、さらに与那国島にも攻め込んだが、サンアイ村のイソバが、これを撃退したという逸話が伝わっている。

八重山の島々は、琉球王朝や、さらにその東のヤマトから押し寄せる覇道の波に繰り返し晒されてきたのだ。

祖納集落のDiiと与那国交流館では、戦前・戦後の人々の暮らしを垣間見ることができた。

海人達はサバニと呼ばれる帆掛け舟を駆り、カジキマグロを獲ってきた。彼らの「突きん棒漁」は、台湾の人々にも受け継がれ、サバニは島民達が台湾へと渡る足となっていた。

また日本の台湾統治時代には、与那国島に東洋一の往来が盛んだった様子が窺われた。

第二次大戦中は、南方からの石油を運ぶ台湾航路の要衝だったため、久部良や祖納集落は激しい空襲に見舞われ、灰燼に帰している。

戦後の混乱期には、米軍からの横流し品をアジアの国々からの生活物資と交易する「密貿易」が横行したが、その拠点として栄えた与那国島では、ディーゼル発電による街灯が明々と灯され、映画

館まであったという(参考 文春文庫『ナツコ 沖縄密貿易の女王』奥野修司著)。

終戦直後に、日本各地の闇市を通して人々の暮らしを支えた医薬品や砂糖などの源流が、この小さな島にあったのだ。

こうした動きは、国家が国境線を巡るつば競り合いを始めると「密貿易」として取り締まられてしまうのだが、海で暮らしてきた八重山の人々の、ボーダレスで自由闊達な息吹を感じられたようので痛快だった。

## 要塞の島

9月30日。台風が台湾沖に居座り続け、離島行きのフェリーは全便が欠航となった。帰りの飛行機も台風次第との連絡が入り、私はフェリー埠頭近くの宿に留め置かれることになった。

与那国島・石垣島を巡った後、西表島の近代化産業遺産、宇多良炭鉱跡や内パナリ島の西表炭鉱跡まで足を延ばす予定だったが、西表プランは諦めるしかなかった。気を取り直して、南海岸の大浜方面に向けてレンタカーを走らせた。

大浜地区は、与那国島の話で触れたオヤケ・アカハチ所縁の地であり、海辺近くにはアカハチの逞しい像が建てられていた。旧暦の3月3日には毎年ここで慰霊祭が行われるという。地元の人々の心に生きているアカハチは今でも英雄なのだ。



オヤケ・アカハチ像

ここで昭和19年の大浜に話を移そう。

大浜・宮良・真栄里海岸一帯には、ベニヤ張りの特攻艇や弾薬等を秘匿する壕が数多く掘られている。近隣では海軍による南北2つの飛行場が完成し、5月には陸軍白保飛行場の建設も始まる。しかし7月にはサイパン島が陥落する。さらに10月からは米英軍による空襲や艦砲射撃に晒される日々が始まるのだった。

そして、全島要塞化とも呼べそうな造営工事に駆り出されたのは、朝鮮から徴用されてきた人々と近隣の住民達であった(参考 南山舎『八重山の戦争』大田静男著 ※注)。

現在、海軍の北飛行場跡地は、そのまま国際農林水産研究センターとなっている。また南飛行場跡は、旧石垣空港として使用され、新石垣空港の完成後は、石垣市役所や県立八重山病院が建ち並ぶ地区となっている。すっかり様変わりした戦跡を巡りながら、当時の人々の、その後について、しばし想いを馳せた。

## 戦争マラリア

次に訪れたのは八重山平和祈念館。「戦争マラリア」に対する個人向け補償の代わりに、国が慰藉事業として建てた施設だ。

マラリアとはマラリア原虫が引き起こす感染症で、この病原体を持つハマダラ蚊等に刺されることで罹患する。発熱や悪寒、嘔吐を伴い、重症化すると死に至る病だ。

元来、八重山にはマラリア病は存在しなかったが、16世紀に漂着したオランダ船から感染が広がり、風土病化したとされる。その惨状については、明治期の探検家笹森儀助の著書『南嶋探験琉球漫遊記』でも触れられている。彼は西表島を探検す

るにあたり、機那丸(特効薬キニーネの丸薬)を携帯し、病で寝ている老婆にも分け与えた話を記している。つまり、マラリア病の恐ろしさと特効薬、蔓延環境については、既知の事実だったのだ。戦局が悪化するなか、独立混成第45旅団司令部は石垣島内陸の於茂登岳山中への移転を決めた。それに伴い、住民達にも於茂登岳山麓への疎開が求められた。さらに他の島々にも同様の疎開が下命されたため、3674名もの犠牲者を出すこととなった。

これは、八重山全体での空襲等による犠牲者の総数、178名と比べても格段に大きな犠牲であり、人為的に引き起こされた悲劇「戦争マラリア」の名が生まれる所以となった。

そして、この強制疎開は、陸軍中野学校出身の「残地諜報者」の指揮で遂行された。「残地諜報者」とは、米軍に占領された後も、現地に潜み、反抗作戦を行うべく教育された工作員のことだ。敵に情報を漏らさないため、「住民を捕虜にさせないこと」が彼らの目的だった。

キニーネの備蓄も皆無に近い状態で、マラリア蔓延地へと住民を追い立てた疎開には、守るべき国民の命を犠牲にしても、作戦を遂行してしまう「戦争」の狂気が透けて見える。

## やわらぎへの祈り

車は、名蔵川沿いの道を於茂登岳山麓を目指して遡って行く。雨脚は次第に強くなり、雷も激しさを増している。アスファルト舗装の道に別れを告げ、土道を辿った先に現れたのは白水取水場。場内は「立ち入り禁止」の看板とともにフェンスで閉ざされているため、これより先へは進めないが、その向こうに見える山中こそが、強制疎

開の地なのだろう。

絶望的な状況に置かれた人々の気持ちの表れか、嵐は強まる一方だった。山中に停めた車の中で、持参したおにぎりをお供えし、「くにも」とを歌い続ける。やり場のない無念や憤り、絶望を抱いたまま亡くなった人々の苦しい思いが、少しでもやわらぎ、親もとである霊界に還ることができまますようにと、法主さんに祈りを繋いだ。

先住の方から戦争で犠牲となった方まで、様々な人々や「もの」達が伝えてくれる物語り。その一つひとつに向き合っていると、私も含めた、その総体こそが「頭幽一体」の世界なのだ教えられている気がしてくる。

一方、姿なきものの声に耳を傾けなくなりつつある現代人は、ますます偏狭になり、「分断」の苦悩からの出口を見失っている。

心の中の闇におびえ、相手を「敵」とみなす狂気は、やがて身内の中にも「敵」を見出すようになる。それが八重山で引き起こされてきた数々の悲劇の元凶だったのでなくろうか。

今回の旅では、歴史の断層のような世界に幾つも出会った。それらは皆、「頭幽不二」の世界を理解し、味わうことが、この時代を生き抜く道であることを示しているように思えた。

(注) 国は、戦争マラリアを引き起こした責任に關して、「軍命」による強制の根拠が不明であるとして個人への補償を認めなかった。

しかし大田氏は、八重山での調査に加え、アメリカの公文書館まで足を運ぶ資料探しを行い、戦争マラリアが軍の組織的な作戦で引き起こされた事実を、詳細な記録とともに著されている。

那覇の古書店で本書と出会えた幸いが、この旅への誘いとなったことを記しておく。

### 且田容子さんを偲んで



去る令和8年4月4日に帰幽された且田容子さんは、長年にわたって「あじさいの箱」代表として大倭の福祉や文化活動等に多大な貢献をされてきました。彼女と一緒にボランティア活動をされてきたお2人の方に且田さんを偲ぶ文章を寄稿していただきました。

編集部

### 大倭へ導いて下さった人

岡山県真庭市 湯浅晴子

且田容子さんは大倭に導いてくださった人です。出会ったその日から私の人生は変わりました。今から50年前且田さんの隣に引越して間もない私に且田さんは、法主様のお話をして下さいました。

早速実家(岡山)の母に話したところ、3日目には大倭にお邪魔して法主様にお会いしておりました。アツという間の出来事でした。

母にしか解らない感覚だったのです。その時法主様は私の実家が古代のお姫様の古墳の上に建っていることを教えて下さいました。カムヤマトカモツヒメノミコト(神倭加茂津日女命)との出会いでした。今日に至るまで毎月お祭りをしております。すべて且田さんのお陰です。

その後「あじさいの箱」の代表としての且田さんからボランティアの楽しさを学びました。各自の特技を生かして講習する文化教室(習字、押し絵、てまり、体操、リフォーム、俳句、生花など)を定期的に開きました。また、料理教室、バザーは各地に展開しました。憩いの場としての「和み

もありました。

集まれば和気あいあいと楽しい仲間達でした。主婦としての幸せ、福祉の心を教えていただき、本当に有難うございました。その心は大勢の心に永遠に生き続けることでしょう。

姉とも想う且田容子さんに一句

天の川 来世も姉妹で ボランティア

### 出会いに感謝

奈良県大和郡山形市 藤林峯子

私と且田さんとの初めての出会いは、堺の社宅でした。湯浅さんと2人であじさいの箱を立ち上げる準備の時でした。社宅内の奥さん方と料理教室を開こうと、お2人が一流のシェフにお料理を習いに行くという、なんと活発で旺盛なお方だと第一印象を感じた次第です。私自身、料理が楽しくできるようになったのもお2人の出会いと思いきり起しております。色々なお料理のなかでも特にカレー蒸しは、大倭の田植え、稲刈りのイベントでの一品となって子ども達から大人までの胃袋を喜ばせてくれました。我が家でも家族が集まるときの定番の一品になっています。孫たちもチャレンジするようになっていきます。美味しく、感謝される、お料理にはひと手間と愛情をかけることの大切さもお2人に教わった気がしております。

また、あじさいの箱は大勢の協力のもと、たくさんの方のバザーやボランティア活動を通じて、思いやりの心、福祉の心を学ばせていただきました。なかでも大倭での習字教室では40年間一度も休むことなく皆勤でこられたことを誇りとされていたことに感銘しています。また、お父様からお預かりしていた大切な仏像「光明皇后」は修復され、神宮の生母さんの横に祀られていることに大変喜

こんでおられたことも思い出されます。

容子さんの格言「かきくけこ」も彼女の優しき、生き方の側面を垣間見る思いがいたします。

(か) 感謝を忘れず

(き) きれいに年を重ね

(く) 口を慎み

(け) 健康第一に食事と自身のリハビリ

(こ) これから先の日々を大切に楽しく……

お詣りで出会う度にいつもにっこり、「お掃除ご苦労さん、頼んでおきますね」など、暖かく褒め育てるように声かけてくれていました。容子さんとの思い出の数多くは、尽きることはありませんが、出会いの不思議に感謝して少しでも遺志をついでいければと思っています。

旅立ちの日は桜満開のなかでのお別れになりました。容子さんらしいです。大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

### 表紙写真に寄せて

齋藤正宏

与那国島の南海岸、東崎近くにある奇岩「立神岩」(別名「頓岩」)である。

昔、海鳥の卵を手に入れようとして二人の男が立神岩に登ったが、自力で降りようとした男は落下した。もう一人はこれを恐れて、神に祈りつつ眠りこんだ。目覚めると、岩から降りていたという伝説が残されている。

古代人が、こうした自然の造形に畏敬の念を抱いたのは、私たちが生かしている宇宙的なエネルギー、大倭威を感じたからだろう。

私たちの文明は今、膨大な時間と資源をつぎ込んで、AIという「超人的な何か」を生み出そうとしている。この驚異的な「力」を、「神」と崇める人々が出てくるのも世の常なのだろうか。

# あじさい日誌

5月8日 午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で開かれました。

5月10日 社会福祉法人大倭安宿苑成立70周年式典が開催されました。

午後2時から大倭会主催視会が大倭拝殿において開かれました。

この日のテーマは「心に残る言葉」でした。

5月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

5月23日 午後2時から大倭大本宮の月次祭が行われました。

今回は昭和38年5月23日の法話をお聞きしました。

5月24日 大倭会主催の文化行

事が行われ、大阪天満宮、中之島バラ園へ。快晴の空の下、バラ園はとてきれいでした。参加者は8名でした。



5月25日 午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で開かれました。

5月28日 北海道小樽市の本紙『おおやまと』の編集部員であ

## 東光大祭 祖霊祭 祭典のご案内

令和8年8月27日(木曜日・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。正午から、奥津斎庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

【注意】 祖霊祭の経木への書き込み受付は

7月25日まで。日数に限りがありますので、お忘れのないようお願い致します。

る守谷明宏さんが来邑され、交流の家で食事会が開かれました。

それに先立ち本紙『おおやまと』の「寸沙」の取材を教務本庁において守谷さんに中村千久佐さんがされました。

6月6日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

午後6時半から大倭会館で邑倭の会が開かれました。

大倭安宿苑では

5月10日 法人成立70周年記念日。午前10時より守護神様へご挨拶後、式典を午前11時から行

いました。勤続年数30年1名、20年2名、10年8名を交えた祝

賀会の会食を来賓・役員の方々にも御参加頂き式典終了後に開

催しました。式典は2019年

以来の開催となりました。



(菅原園)

5月28日 新緑祭を行いました。

午前中しおやつ釣りを開催、昼食時に鉄板で焼いた焼きそば

とワインナーを頂きました。普段の食事メニューに出ることのない焼きそばやワインナーで少しお祭りの屋台気分を味わいました。午後からは音楽療法を楽しみました。

6月7日 午後から映画サークル、映画「国宝」を上映。普段参加されない方なども参加されましたが、3時間の長編物のため、疲れて途中出ていく方もおられました。中には「この映画はテレビでの宣伝を見て気になっていた」という方もおられました。

(須加宮寮)

5月10日 法人成立70周年記念式典に利用者5名・職員2名が参加しました。寮に戻って食堂

でお祝いのごちそうを残さず食べていました。午後から、カラ

オケを行いました。

5月15日 前年度から計画をしてい

ていましたが、感染症等で実施ができていなかった、「おひさま

まデパート」を開催。衣類や靴・

雑貨・菓子類等の販売があり、

たくさんの方が参加、職員付添

いの元、思い思いに購入しまし

た。終了後、「服買えてよかったわ。ありがとう」と言って喜

ばれていました。

(長曾根寮)

5月5日(日) 端午の節句に紙で折った兜を全員が被り、じ

ゃんけんで取り合うゲームなどで楽しみました。

5月10日 法人成立記念日。各フロアにて豪華な松花堂弁当の提供があり、利用者と職員も美味しそうに食べました。

5月11日(特養) 職員と一緒にペランダに出て外気浴をし、皆さんは風が心地よいと話されて

いました。

(茂毛路園)

5月10日 法人成立70周年記念式典で入居者1名の方が代表出席して、理事長より記念品を受け取られました。その後、昼食

では豪華なお弁当形式の創作料理を皆さん美味しく食べていま

した。

(八重垣園)

5月10日 法人成立70周年を記念し、3階食堂にてお祝いのご

膳を皆さんで頂きました。久しぶりのお寿司に皆さん喜ばれて

いました。

## あんない

\*月次祭(大倭神宮)

7月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催視会

7月12日(日) 午後2時より大倭拝殿にて。

\*月次祭(大倭神宮)

7月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大倭大本宮)

7月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。